

氏名： 古川 享 （慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授）

略歴：

1973年 麻布高校卒業。
1978年 和光大学人間関係学科中退。
1979年 株式会社アスキー入社。出版、ソフトウェアの開発事業に携わる。
1986年 アスキーを退社し、マイクロソフト株式会社を設立。初代代表取締役社長に就任。
1991年 米国マイクロソフト社の極東開発本部長に就任。
2000年 米国マイクロソフト社コンシューマ戦略担当バイスプレジデントに就任。
2002年 米国マイクロソフト社 アドバンスド・ストラテジー&ポリシー担当バイスプレジデントに就任。
2004年 マイクロソフト株式会社 最高技術責任者を兼務。
2005年 マイクロソフト退社
2006年 慶應義塾大学、教授、デジタルメディアコンテンツ統合研究機構に就任
2008年 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授に就任

専門分野： A B

専門分野（詳細）：

OSの日本語化とそのマーケティング

CP/M, MS-DOS, UNIX, OS/2

Windows、組込み型システム

アプリケーションソフトウェアの開発、市場開拓

ジャスト・システムの日本語ワープロ

マルチプラン、ワード、エクセル

データベース (informix) など

通信放送の融合に関する基礎技術

デジタル圧縮技術、暗号化

著作権管理、VOD

ハードウェアとソフトウェアの境界領域

ビジネスモデルの創生

公募対象プロジェクト：

- **デジタルデバイスの相互接続を実現するシステムソフトウェア、それを利用した社会環境を実現するアプリケーション及びサービスに関するプロジェクトを公募します。**

現在個別に発展を遂げている、PC、携帯電話、デジタルTV、デジタルカメラ、ポータブル音楽プレイヤー、自動車の電子化、セキュリティ・システムなどが個別に閉じたネットワーク上でサービスを構築するのではなく、次世代においては相互接続を可能にし、アプリケーションの分散処理、データの相互交換、複合的なサービスの提供を可能にするために必要なソフトウェア群の提案を期待します。提案の内容は、ソフトウェアのみに限定せず、共有されるデジタルコンテンツの実例、圧縮、認証、課金技術などを含み、ビジネス・モデルやサービスへの提言をも含むものとします。

募集するプロジェクト参考事例として、

1. 家庭、自動車での移動、オフィス、他の交通機関を利用した環境の中で、必要なメッセージの自動転送、スケジュールの同期、ニュースの配信、情報の共有、緊急の連絡（災害発生時など）、音楽・映像を含むコンテンツの購読、個人の認証、既存課金システム、ポイント制度の相互運用などを、既存のネットワーク環境（通信および放送を含む）と既存のデバイスのシステムソフトウェア、アプリケーション群、サーバーホストシステムを書き換え（書き加え）て複合的なシステムのプロトタイプを構築することを期待する。
2. 災害発生時の緊急情報共有システムとして、被災状況や危険地域のリアルタイム情報共有、被災者名簿の配布や安全地域に対する避難誘導などを、既存の放送メディアや電話網（固定・無線）もしくはインターネットで想定される障害を回避できるような、ネットワーク網、情報の共有、データのリアルタイム更新、電源からコンピュータ資源、格納領域を含む障害対策案などを含むこととする。情報をアクセス可能にする、デジタルテレビ、デジタルラジオ、電話網、汎用ネットワークのネットワークトポロジーとそれに接続可能なデバイスを実現可能にするソフトウェア群を提案する。
3. 無線LANもしくは有線のネットワークを活用したIP電話網と、携帯電話網を両方カバーするようなデバイス（携帯、オフィス電話、家庭用宅内）を用いて、総合的なテレフォニー・サービスを実現するなど...ワン・ナンバーによる最良経路の選択、自動転送、ホッピング（通話途中で遮断せずに携帯電話からIP電話に自動切換えを実施する）を活用するなど...留守電のメッセージを携帯、宅電、メール受信など一括受信し、どのデバイスからも読み出せるようにするなど...テレフォニーで活用すべき、留守電、着信・送信履歴、電話番号帳、検索履歴などをあらゆるデバイスで共有できるようなソフトウェア群とそれを活用したサービスの実現を期待したい。
4. 家庭内の高速ネットワーク（HD PLC、HDMI over UWB、HDMI over Coax、MoCa、HANA、DLNA）などを活用した複数の家庭内デバイスに必要なシステムソフトウェア、サーバー、クライアントソフトウェアと、サービスを実現する。家庭内のセキュリティシステム、空調のコントロール、火事・ガスなどのセンサー、映像・音声の家庭内共有、オンデマンド系と放送受信以外に適宜な録画予約システムと家庭内、地域の情報キャッシュ、マルチプルコーデックを活用したサムネイル、検索の実現、720p、1080i、1080pに留まらず、2Kもしくは4Kシネマへの展開、ロービットレートを活かしたポータブルデバイスへの同一コンテンツの共有と権利処理などを実現するソフトウェア群と、それを実装するデバイスへの提言をソフトウェアによるプロトタイピングを通じて提案するなど...

- デジタル技術を活用した、「デジタル・シネマ」の撮影、編集、映像アーカイブ、ネットワーク配信、映写システムに必要な各種ソフトウェアを体系だてて提案するプロジェクトを募集します。本件は、「デジタル・シネマ」に限定せず、「次世代デジタル・テレビ網とIPTV」「デジタル・ラジオ」「スタジオにおける音楽制作、コンサートにおけるデジタル音響システムとライブ収録システム、マスター制作と音楽のネットワーク配信、デジタルミュージック・プレイヤー」「クラブやコンサートにおける音楽と連動した照明やVJソフト」なども範囲に含むものとします。
- 「オープンソースによる開発手法」と「商用のソフトウェア開発」を両立させるための開発手法、ソース活用、新規開発/引用、開発工程管理、公開手法、知財保護を...ソフトウェアによりどのように実現可能か提案して頂きたい。

募集するプロジェクト参考事例として、

1. プログラム開発をするための「新時代エディタ」を提言し、そのエディタでオープンソース資源を参照した場合には、その引用箇所と出所履歴をソースコードに自動記録し、自身の開発内容を将来ソース開示することに備える。同エディタを利用して商用ソフトウェアの開発を進める時には、引用しているライブラリにGPLに罹るコードが一切含まれないかを確認しながらソフトウェアの記述をする、自身で新規記述したプログラムが他社もしくは他者の知財（パテント、著作権）に抵触しないか自動的に検索、参照するようなエディタ+ブラウザ+検索システムなどがあれば、オープンソースへの参画、他人の権利を犯さないソフトウェアの開発手法が確立できると思います。
2. 第三者から、ソフトウェアの開発工数と第三者からの権利侵害に備えるために、上記エディタの使用と共に時系列ごとの新規開発履歴、改修の履歴が記録されれば、自己の開発成果とオープンソースにより引用した部分の有無を明らかにすることも可能となります。合わせて、自己で開発した成果をオープンソースに提供する際に、自分の貢献度（自己のオリジナリティと公開の履歴、引用・参照の履歴）も同エディタを共同使用するソサエティ間で情報共有することも可能となりましょう。

提案テーマ詳細説明の記入要領 及び 審査基準

記入要領：

他のプロジェクトでガイドラインにされている、タイトル概要、テーマ詳細説明の書式に準じるものとします。

審査基準：

既存のアイデアやソフトウェアの批評、改版ではなく新規性を重視します。2つもしくは3つの異なるネットワーク、異業種、顧客からみた個別サービスをソフトウェアの力によって統合・融合できるような提案を期待します。技術的な優位性や商用のサービスとしての有用性だけではなく、社会的なインパクト（たとえば、新しいデバイスの出現を促す、既存の斜陽産業をV字回復させる、雇用を促進する、団塊の世代に対して社会的関与を即す、教育における諸問題を解決する、プライバシー保護や犯罪の防止など）をもたらすことのできるような、ソフトウェア・プロジェクトを優先して採択する方針とします。

採択予定数 (予算枠30,000千円位)	4～6件程度	
採択しようとする 応募者の条件	机上のプランとソフトウェア開発を目標にするだけでなく、提供するコンテンツおよびサービスの内容やビジネスモデルを具体的に提言できる方を優先します。	
プロジェクトの 進捗管理、対応方針	キックオフ、2回の中間報告、助言を求めたい企業もしくはジャーナリストとの懇親会とレビュー、メールは逐次...進捗管理をブログもしくはSNSにて公開することも検討したいと思います。	
指導観点	人材育成の循環への貢献	ビジネスマインドの醸成